CYBERMAIL Σ

建設現場の ICT・IoT 活用の推進を支える マルチデバイス環境に対応する CYBERMAIL Σに移行

～ネットワーク負荷に強く、快適・安心して利用できるクラウドメール環境～

大成温調株式会社様は建物の新築、保守、修理、リニューアル工事および節電・省エネのプランニングなど、建築設備について設計から施工まで一貫して行う総合設備工事会社です。建築設備と一口に言っても、空調や衛生（水回り）、節電・省エネなど、企業によって得意とする専門分野はまちまちですが、同社はどの分野にも満遍なくノウハウを持ち、ワンストップでソリューションを提供できるのが強みです。さらに 2017 年から、同社は ICT、IoT 分野への投資拡大を進めており、そのためにはまず自社のメールシステムから見直そうと、従来のオンプレミスのメールシステム「CyberMail」からクラウドメール「CYBERMAIL Σ」への切り替えを決断されました。

コーポレート本部　管理統括部　情報システム部長　石井健一氏

User Profile

大成温調株式会社

大成温調株式会社
http://www.taisei-oncho.co.jp/
本　社：東京都品川区大井１－47－１
設　立：1952 年 12 月 27 日

導入前の課題
・複数のメール環境が混在し統一されていないこと
・外出先から添付ファイルが見られないこと

導入製品
CYBERMAIL Σ

導入後の効果
・モバイル PC、デスクトップ PC などから１つの Web メール環境に統一
・迷惑メールの設定をユーザに移行し、情報システム部門の運用が楽に

■ 導入背景
複数のメール環境が混在し外出先から添付ファイルが見られない

―「CYBERMAIL Σ」への移行前、どのような課題があったのでしょうか。

当社では元々、オンプレミスのメールシステム「CyberMail」とグループウェアの「サイボウズガルーン」を連携して利用していました。基本的には社員それぞれの PC1 台ずつにメーラーを入れ、各自の PC に POP 3でメールを保管していました。複数の部署に所属している社員は 部署ごとに PC があり、１つの PC から送信したメールが別の PC からは見られない状況でした。これを回避するため、IMAP に切替ましたが、添付ファイルが多くメール BOX の容量を常に圧迫している状況でした。また幹部社員に iPhone を導入した際には他のクラウドメールにメールを転送して閲覧していました。また、当社は建築会社のため半数以上の社員が現場に出ていますが、営業を含め外出先からフューチャーフォンを使ってグループウェアにアクセスしてメールを確認していたのですが、添付ファイルが見られない状況でした。複数のメール環境が混在し統一されていないこと、外出先から添付ファイルが見られないことなどが大きな課題となっていました。

大成温調株式会社様　導入事例

CYBERMAIL Σ

■ 導入までの経緯

メールシステムのクラウド化を前提に２製品が候補

―導入に至るまでは社内でどのような議論がありましたか。

社長を筆頭に「ICT・IoT 推進委員会」を立ち上げ、そこで全社的にタブレットやスマホを支給することが決まり、そのためには現状のメール環境の課題を早急に解決しなければならないという議論が最初にありました。そしてメールシステムのクラウド化を前提に「Office365」と「CYBERMAIL Σ」の２つの製品が候補に挙がったのです。

■ 選定で重視したこと

ネットワークの負荷とその負荷への耐久性

―製品の選定にあたって重視したことはどんな点でしょうか。

最も重視したのはネットワークの負荷がどれくらいになるか、その負荷にどこまで耐えられるかという点でした。建設業界は図面や現場写真など添付ファイルが多く、現場からのアクセスも多いという特殊な環境です。そのため選定前にテスト環境を貸し出していただき、稼働中の「CyberMail」で受信したメールを全て転送して負荷テストを行ったり、実際の運用に近い環境での使用感など、１年弱の時間をかけて入念に検証を行いました。「CYBERMAIL Σ」は約 5000 通のメールを一気に転送しても、問題はありませんでした。

■ 選定した理由

慣れ親しんだインターフェースで運用面に不安がない

―「CYBERMAIL Σ」に決定した理由はなんでしょうか？

ネットワークの負荷テストでも、大きなトラブルがなかったこと。これまでオンプレミスの「CyberMail」を使っていたので、「CYBERMAIL Σ」ならデータの移行がスムーズに行くだろうという点は大きな魅力でした。また、管理者画面が従来同様であること、また社員が利用するインターフェースも簡単で慣れ親しんでいるので、運用面で不安がないのも理由の１つでした。

■ 導入後の効果

外出先から１つの Web メール環境で利用でき社員からも好評

―導入後、課題は解決できましたか。

iPhone、iPad、モバイル PC、デスクトップ PC のすべてから１つの Web メール環境を利用できて、社員からも非常に好評です。入念に検証してきたので導入時にもトラブル無く、スムーズに移行できました。解決だけでなく思いがけない導入効果もありました。これまで使っていた アンチスパムサービスでは、社員自身で迷惑メールに振り分けられたメールの確認ができませんでした。取引先からのメールが迷惑メールに判定され、メールが届かない場合は、情報システム部門がログをすべてチェックし、該当メールを届くようにホワイトリストに登録する作業をしなければなりませんでした。「CYBERMAIL Σ」移行後は社員が自分で迷惑メールに判定されたメールを確認できるようになったので、社員も情報システム部も楽になりました。

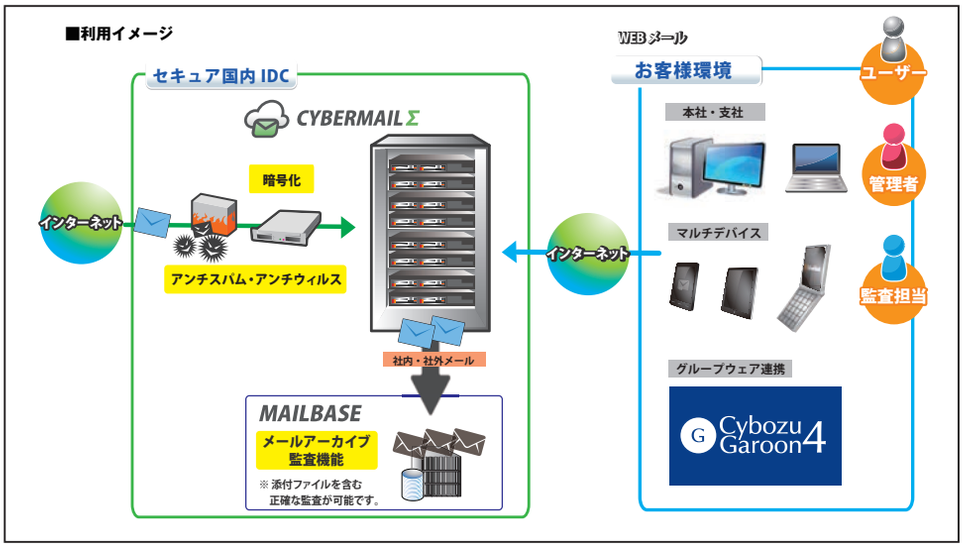
また、自分のメールアドレスにどんな迷惑メールがどれくらい届いているか社員が目にすることで、そうしたセキュリティに対する社員の意識が以前よりも高くなっている気がします。メールを自動で暗号化できる機能も非常に便利でセキュリティが向上しました。送信予約機能と合わせて利用することにより誤送信防止に役立っています。

■ 今後への期待

他ソフトとの連携強化やチャット機能の追加に期待

―最後に、今後の「CYBERMAIL Σ」への期待や要望などがあればお聞かせください。

グループウェアだけでなく他のソフトとの連携強化を要望します。例えば名刺管理ソフトや Excel などで住所や電話番号といった取引先様の情報を管理しているケースで、メールアドレスをクリックするとサイバーメールが起動して宛先まで入力されるような仕組みです。また、現在はメールとチャットソフトをそれぞれ別の ID で運用していますが、これを同一の ID で管理できるようになるととても便利になります。今や社内の連絡はメールよりもチャットがメイン。近く「CYBERMAIL Σ」に追加される予定のチャット機能に期待しています。



※記載事項は予告なしに変更となる場合があります。　※記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。　2018.06